



5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4

もゆりかのよ十け巻

山賞十

そととなしよべきあとハレヘどく

おせわやまきげめびとせり

此野べのきよびよいとかくもうねまよひをよのくへ。そご
もあらつまで。お酒まくやまくまく。ぬながくどふ。うやしくかぎ
を。おづくもむく。まきて。いあをくぐる。思すん。ちゑも
もふ色せきのうにゆく。りあきむかとく。おして。まちあつす
つすく。かほぎく。も一つ二つ。あうせ。が。おのづく。おひふ。か
く。うだき。でひえ。うねまき。おひわ。てき。あ。波。今。まく。



かへてもまともがきて。併乃びとねまもあらむ。まともあきらめく。さ
うもまたあつみいでをして。うるは他よりふよこむらうがうるをも。うわせであ
ざまきゆ。あつうりくあざあらむ。なまきをすりおど。今かむととよそへ。ま
ちとながく。身ひきをぐくまふ。仰のにあそきハ。とくふらも。でこで。うかうを
へぐらうるも。うらぎをかくねぐるや。まくら。まかん。ばふまく。かくうじ
てほりそ。ども。まくらめくまくら。ねまくよ。

おまきびのくわぐ

むすゞハ空國のまねびとて、ああもとひかくよ
をのまへるほどあそをゆるまへいきのまへやうふうそ
のまがりゆきかくあめまへやうふうそ
のまがりゆきかくあめまへやうふうそ

かのうのうかくはもとからばあふううりをす。上つ代のまへおのき
をまくかもいをどきをひめ異ぬおまづりをまくがども
のううくびねりふるかくて後ふりみて。皇國の學エチ・もとと
みとくとくはりつとども。あり漢カラゴロとせ。今してもつまくる人ふ
かううとがくら名のううみ。みくみぬまわびうハキルと。りひとりひ。お
れいとゆきく移シテあかふぞきりと。みびうくも。さあがぞお
きうきとバ近き号やまび乃そむくきて。とうびちうくたりや
ふたひくも。おうくふきのうのう。拂くさうとおきたりて。古
のときハいよくちるふなむきふりを。ばちうたうかおきりを。

人も、氣も、いやへのうちをもあがやうとせ。明智をもやう。あうとが
松直^{ナホ}_ヒ、大直^{ナホ}_ヒ、昆の外^{ナホ}_ヒ、まゝまゝハ・シ・イ・ウ・_ヒ、
かくす。

ひめへよちほくをもみせらる波うねむす
よの申みいふ人のすめりづかうへくま文さすがふれぬ家
きどとおれう波か流れでくに代りりうりて何すとれ
こしもをはやつき申ふもえうも。うそをもづきて文さすめ
むす。うそをつべきはあくともうと直思浦のれいの。まわのと
う波へよび捨てハヤカはぐべきよ。かくみかじべきとうち
あきよさとくと。はあくよひきく。うちをにきよかとまきなき

ゆき氏へおどか代乃ゆゑよとまんをどば。まくかるいとよ。まく
ぬも。そやくあらえをそゆがおねま。今ハ心ふ思ひても。二三びつ
ぎあくとべきよ。おくちんちまくはあおもあ。あめあきと。ひ
づくふらあうて。抱まくと。じふ。おもく。うふ。まく。よく。うきと。まく。め。
今うき後。ももあうだまみか。いふ。うき。うき。うき。うき。あう
うき。あう。うき。

鬼オニといひよもあつた。まことに今の紫シモツやうへんべうどもつて、古き
物語中ノもウソハ書かシふ。多くうるさみも、りそなほいづとし。まく
書紀の麻シモツひち官クニは筆シモツか。一本ハみ官中クニ見シモツ鬼オニと云シモツ。まく於朝倉山シモツ

上有鬼アカ。かどりてよるハ今もいふ游迹アマツシテ。又曰書アマツシテ中アマツシテか。邪鬼
鬼神アマツシテ。姫鬼アマツシテ。あどりてアマツシテ。かとアマツシテ。假アマツシテるアマツシテ。かとアマツシテ。鬼アマツシテ。鬼部アマツシテをいづ
あとアマツシテ。さとアマツシテ。ハ訓アマツシテ。まふ行アマツシテ。鬼アマツシテをも。神アマツシテとハいふべ
くアマツシテ。また又和名抄アマツシテ。鬼神部アマツシテ。人神アマツシテ。曰アマツシテ。鬼アマツシテ。四声字苑アマツシテ。曰アマツシテ
鬼アマツシテ。人死アマツシテ。神アマツシテ。魂アマツシテ也。和名於迩アマツシテ。或記アマツシテ云。於迩者アマツシテ。隱アマツシテ音アマツシテ。之訛
也。鬼物アマツシテ。隱アマツシテ而。不欲アマツシテ。顯アマツシテ形アマツシテ。故アマツシテ以アマツシテ称アマツシテ也。とりひ。又鬼魅部アマツシテ
也。鬼和名於爾アマツシテ。或說アマツシテ云。於爾アマツシテ。隱アマツシテ字音訛也。鬼物アマツシテ。隱アマツシテ而
不欲アマツシテ。顯形アマツシテ。故俗呼アマツシテ曰。隱アマツシテ也。といひ。みみむかアマツシテ。まづ游迹アマツシテ
か鬼アマツシテ。字をかくハ。鬼魅アマツシテのまづアマツシテ。まづアマツシテ。魅アマツシテとハ。怪物アマツシテをいづアマツシテ。有り。
又天神地祇人鬼アマツシテ。人の死アマツシテ。神アマツシテをも鬼アマツシテ。とり。まづアマツシテ。その人鬼アマツシテ

游迹オニかへうタビ。御まゐるのとたまへき。人鬼ノコギをも。とある
游迹オニとせむハ。字によりて誤スルるやの。しままでまめ曰ドキふよりて名
を混テガへ誤スルる。げとびむクらう。物モノと卫ケン人のつよし。又游迹オニとひふ名
を隠ヒカツ字シラフ音ノミこといても。いとうタカヒきひがとし。形をかくはりとりて。名をせ
むう。加カク久ク礼レあごアゴとひるをも。その隠ヒカツ字シラフのちをうりてよどむ
そはいともトモあがわし。まもとまづべくも行ハジ。又陰物カムイるようにて。陰
字シラフもとひふ說ハナシも。月ヅクとびのむかとひり。游迹オニとひふま。かとよ
アのゆきをし。又いわへようして。むりびター物モノへ。今タの事モノりよ
と。月ヅク物モノとひりべし。さうともちて。文字モジつかひもとひふ說ハナシ。かとよ
かとよがつと。よろびタかふまわて。もやきをかへ。まて又あふまとひふ

ムハ・カ・漢文の鬼神・といふよりゆうとあて・その鬼神ハ・ニ・字・あ
ラ神の事也・あやハ・わづる神・ぢく・まめ・亨・祭・か・かうもといへ
忌・まかの鬼神を・やそ・游・ホ・と神・と・り・ま・か・て・ら・り・又二つを一つか
て・游・迹・か・り・行・び・神・か・り・行・び・と・も・も・ゆ・け・く・あ・ま・う・し・た・地・を・あ・ふ・う
み・と・り・ま・く・ほ・し・ま・と・又・信・ふ・き・お・ん・と・り・ハ・漢文の鬼神・や・行・
ひ・う・れ・あ・か・う・み・や・行・び・游・迹・と・り・す・も・り・ま・う・く・う・だ・く・う・ま・り・俗・
と・も・誇・か・鬼・ち・女・房・か・ハ・き・ち・し・が・な・る・と・つ・あ・ど・ハ・ま・さ・く・く・女・鬼・と・き
あ・し・く・ひ・つ・が・お・く・考・申・せ・ん・人の・ま・集・ハ・ば・や・し・き・あ・ま・く・
か・ま・や・く・う・つ・ウ・ゆ・く・よ・ま・た・う・り・な・ど・

物・の・こ・と・を・よ・く・す・る・事・わ・ま・や・あ・き・る・

ト・う・け・の・ま・本・も・默・き・ふ・く・と・り・行・く・の・物・の・よ・い・代・よ・り・も・う
め・あ・く・く・考・へ・て・考・く・し・ま・書・く・と・行・く・く・れ・と・あ・く・く・せ・ま・
ハ・左・ま・ね・ど・ソ・ア・ま・ま・う・め・ゆ・く・と・シ・バ・ヘ・ト・リ・く・う・ら・う・う・と・清
音・ハ・シ・ブ・游・順・の・和・名・か・の・く・と・ハ・わ・き・か・の・書・は・ま・え・ま・べ・い・と
手・を・お・く・か・く・物・を・い・出・ま・す・や・ね・む・り・西・行・び・ば・く・人・ま・み・の・こ
ト・う・
あ・べ・う・
う・
う・
う・

ぞよりあらわをかまく後の方化どもハアアあともども
みかづのかさまびひりこむとゆるをも。金のまうびのとちある。
まく用もなまく。今いそ古事紀書紀。まなまえをや。もて多
きゆきともをあぐよく。まく。中ひうちかまく。しのぎの手のうでの物をさじ。
ちくちく。今きもあらわのうりとふも用ひべき。まみけ書道。作り。知む
人もがねふのきもやく。ちりせらふ。此らざく。うそど。しもやもかく。ぬ
まごき。物のうそどふも。えてもあきど。いまはのうそど。よひも。いと
ちく。かきこまち。まねば。今より後の人をい。まく。ま
きしむかなし。けえ七年。がうり。まんた。鐵あ。玉乃府中めん人をい。
行。東四郎。多羅。といつ。まごこうじきのとねり。うが。うかへま。

やうりけるハ、支羅が父もいある物産はまほ好んで、ものゝうま
ふ。多良也、まほのめかし、やどりき、もともじふとせりゆく。もろこ
まほもんじ、もともじ、ねむるほどまで、人のゆゑをとよまよすか
なを乞ふ乃はちぢみす。とうきをさうするは、いまだえてすえど、取ま
えれ、今より是のまねびを、おへそとくざして、うめぐ
考へまほすゞもくらむことて、一毛二毛うたあつむともも。と
ぞんそほも、もくじ、よもううえくわへふ。おのづ思ふふくふとま
まゆて考へむ。よもううえくわへふ。よもいさじからううびつとて、おも
てよと、袖しづくふとも、そもそやまへを、まほ後、ふき
やまもももす。らうてまよ。まちうたふ人ようす一かこの

よむかで。ひそかにまかで。うちをのこひま
かりゆと。ほのまかで。うめと。かくばいと。う
めらきにまかで。ふぞる。

和名抄と少名

のよタかハ倭和日本本邦吾國をどりとソベキにあらば、が例ひを
ううふへてみるもあす。いとやうきぬ。またバ今トナラ復、和名抄の
あくや。あみ物アリテモちまはつらむ。もの書は名ハ。ま
るもの。ちば。ちべ。アリ。まゆ。もの。ちのん。と。傳。く。も。と。え。を。阿。米。漢
名。天。え。都。知。漢。名。地。え。と。や。う。に。ま。び。ま。物。カ。名。を。傳。字。虫。也
あ。ぎ。て。次。ア。漢。名。の。ま。が。う。げ。ま。そ。ま。ま。を。ソ。ベ。ー。と。う。う。と。も。
ひ。漢。名。ハ。河。ア。ア。み。れ。と。聖。バ。わ。き。で。も。き。ベ。魚。ど。用。多。文。字
み。か。漢。ナ。ド。キ。て。物。の。名。は。ほ。キ。其。名。を。あ。な。ひ。き。れ。ぞ。ま。と。ぐ。に
そ。き。と。ま。で。ハ。よ。う。ゲ。ふ。ま。う。ー。ま。と。バ。ア。タ。レ。に。ま。ま。レ。ル。次。ユ。ハ。行。ぎ。で。あ

まづくぬがきと

かぐく

かぐくは、やへも、外をまじめり。もとば、まちまし。古今事記ハ、かくあ
きのうきとまされる。神樂とおほし。かくハ、かくらむじとぞ訓
べきかぐくと、かくも、いづねく。かくのうそめ
まし。六帖の数々ハ、かぐくとがます。

壁言くよもとす

かくふくとくは、かくゆきかくにうれしも。かく物のうへふもとへ
ていた。かくとおくもすゆるや。かくうらるよじ。かくわらわの
かくへりす。かくうりまで。うふもと。今おきり人。かく

あくまくし。空國のくわも河川。戎の水カラも。おたりを
あ代。お代くし。人よ。まぐく物のくるえをよまと。やと上を出で。
言まくわくは、とくす。まふとく。聲へとくわがゆ。こ
のふれうを。佛乃達がとくはふ多く。うつとくとく。がちくハ
おどりくとく。とくはふ多く。もくえなうをくく。とく
ふもの下。や。

物をよきらうとす

まづく物の色形。又車のうらを。づひきとく。じあくまく
じして。おだとうふさくりかくに。づひかうふと。そハ

の印トモアヒリ物を巧ギテ其の色小印トキビタニシテ
おもくやうぞとし。さのまくはかハ。その例を一つ二つ引出
ミバ言ふやうでよくわからぬがり。

詩のよどやか人の印ニアニ

嚴滄浪詩話トシ物小詩之是非不必爭試以己詩置
之古人詩中興識者觀之而不能辨則真古人矣。とい
ふ。余嘗服明卿五七言律謂他人詩多於高處失穩。
明卿詩多於穩處藏高といつてこれ又うもじよじんて
ゆふ。宋明のころねど詩のよどやかの印ニアニ

アラダヘアカクノ印ドキガアトグヒカクナリ。シテアラノ
ドガアヤシカウムシトモリ。シテアラノ印アラノ印ア
ガアヤシカウムシトモリ。シテアラノ印アラノ印ア
ルミバアリ。シテアラノ印アラノ印アラノ印アラノ印ア

伊子左二條家冷泉家比幸

惺窩文集惺窩先生系譜畧曰先生系出于法性寺
攝政道長公第六男長家卿長家官至權大納言號
御子左又號三條長家生忠家為權大納言號小野
宮忠家生俊忠權中納言號二條院俊忠生親家初
為舅葉室權中納言顯隆子改名顯廣後歸本宗又

改名俊成。為皇太后宮大夫。家居五條世。稱五條三位。別賜播州三木郡細川莊。江州坂田郡小野莊。是為倭歌所奉邑。適子世之襲封。俊成生定家。號冷泉。後稱京極。為民部卿。權中納言。父子相繼善。倭歌永為世範。定家生為家。權大納言。兼民部卿。住采地嵯峨中院。為家有子三人。長曰為氏。權大納言。號御子丸。其後裔稱二條家。又號冷泉。次曰為教。龙兵衛督。號京極季。曰為相。權中納言。號冷泉。三家鼎峙。各立門戶。正元年中。以書券付。播州細河莊。於為氏。尔後為氏有不孝數事。為家悔之。文永十年癸酉七月二

十四日。十一年甲戌。六月二十四日。以文券兩通付。為相。建治元年乙亥五月一日。為家薨。葬嵯峨中院。為相尚幼。故為氏強奪細河莊。為相母北林禪尼。赴鎌倉訴。將軍惟康親王。為氏亦告其事。獄久不決。為氏為世父子。與為相論爭不已。又訴。將軍守邦親王。執權相模守平熙時。判曲直。以正和二年癸丑七月二十日。賜公牒一通。於為相復其本邑。其牒今存于吾家。後住鎌倉號藤谷。薨葬藤谷岡。墳墓猶存。為相生為成。為龙兵衛督。早世。弟為秀嗣。權中納言。建武亂後。細河小野。兩莊為人所奪。為秀無由告訴。徒抱。

哀痛為秀有二男長曰為邦次曰為尹為邦為氏孫為明之子繼御子龙家騷亂之間失其世祿唯攜典籍而家居尋早世為尹乃嗣為秀後為民部卿為權大納言應永二十三年丙申五月十八日將軍龙大臣義持公還付播州細河莊于為尹亦來傳至為純無有爭者為尹有三子長曰為之次曰為員次曰持和持和生而穎悟才過二兄故為尹太愛之釋氏有下請以為弟子者不聽在大臣義持公賜持字名持和因為伯父為邦後嗣傳奇書秘笈號御子龙以采邑不給故來帰為尹乃分與細河之地號冷泉吾

家今猶并用二條之家規本出于此後更名持為權大納言持為生成為將軍龙大臣義政公初賜成字後賜政字因改名政為享德二年癸酉五月二十五日還付江州小野莊兼民部卿為權大納言政為生為孝為侍從中納言為孝生為豐侍從從三位為豐生為純參議侍從累世住播州歲時入朝有子數人長曰為勝為龍近衛權少將次曰教勝次乃先生也幼而為僧既長常讀聖賢之書志嚮儒術後遂還俗名肅字斂夫號惺窩詳于行狀次曰俊久改姓源名有統繼六條有孝後次曰為將天正六年戊寅赤

松氏旁族別所小三郎源長治以兵襲來畧細河莊為純為勝父子防之四月一日戰死依藤氏某聞事急來援館舍燒亡父子已死某悔來遲而立自殺土人感其義合葬三人樹松三四株名曰冷泉塚或曰依藤塚播人至奈^ル之稱之歷世藏書盡為灰燼肅訟之平右府信長公家臣筑前守秀吉秀吉曰且待時運竟不果肅無如之何於是齋正和二年公牒及殘編遺書奉母與兄弟同來京師後弟為將加元服任叙官位時既失邑家亦幾絕肅子為景初奉仕後水尾帝任圖書頭賜號細野取細河小野首尾字也

後光明寺正保中勅冷泉古有兩派可以再興傳旨於東府以為景復為冷泉任允近衛權少將尋轉中將賜城州愛宕郡小山村相樂郡林村及小寺村三所之地數蒙顧聞侍講經筵善詩歌及倭文所著有白鷗文集若干卷享保二年花朝前日正二位行民部卿藤原為經謹識之^スれ二條泉冷泉^ス上件持為^スりあく下冷泉殿のまづし為^スり^スる為景^スり^スる上冷泉殿^ス為尹^スり^ス長子中將萬之^スれ^ス乃未^スり^ス二條泉^ス乃^ス万之^ス為氏^スれ^ス子方納^ス為世^スれ^ス子^スも^ス中將為延^ス中納^ス為^ス萬之^ス中將為^ス萬之^ス乃^ス未^スり^ス也

とあるせり。長子為西おはね子。権大内を為定す。そのふ権大内を為
きづ。そのふ在中の為衡おはたし。次男為義の子。権中納を為明てし。
末子為多納おはたし。権中納を為重てし。かく為子の末。三條おはな
てきづ。皆お能て。二條おはなくちわな。徳あらめと小おはな後
まで。二條おとまえりゆき。此末おもとのあまてとうを傳つてし。
ゑあくばあしのふはとつあらうば。

長嘯おはな

舉白集か。思ひもよふ人の業けり。そぞのときて。んわ。か
とほのふつたりと。わとある。旅舟船。舟ど。山里ふもめべ
んの行ひをねう。

嫁が良右衛門、西船戸、以、再興軒

源氏物語をよむのくわへ

源氏物語をよむ。せうりかて。奥ざる。お十四歳のよみゆくやうじふ
えふ。おかげぞく。うりもうぎて。そし。みどりとも。あまぢよ。
口詫きやうふして。まくかよみと。身くわく。いふくわく。
しやぐなよ。のちくく。まくゆうば。まくゆうまく。ハモド。ハモド。
しゆくくいも。六月をうる。いく。暑き日がまをちの。ぎく。まくも
くろ。ぬうへて。いやくねうつの。まく。うねう。おの。いふよ。あ
やをし。わくよ。おど。き。あく。く。うねう。うねう。ば。うねう。ん。か。うねう
をぬけ。個々と。こまく。ふん。かく。うねう。と。日暮れ。文ふあり。この
年も。長嘯おはな又文をうつをも。ゆく。

東極中納言の墓又時あけ亭の事

同様人の心えめぬまうでる。泊かひまく。妻もくせやの嫁
ちかくみあくすすりとゆかきとりひくらは。さうふれ
ふもねく。そどねりふくらむぞ。わくねく。がくふいきくおし
定めてもうもううといへどじ。そとく。しごとく。あくハれまく
をく御もみやうり。今け相國寺めうちふ。時雨の亭と有り
う。も禄のうちかし。年がめ八月廿日に。まくまく。然の
あくばむとねべいといふ匂。一かづくちく。ふあまく。おとみ
う。かひいと。此兩きうべ。

玄旨は官内忌日

同様。玄旨は官内忌日。おとみ。五條のまくらま
く。お極。萬門乃一。おがと。そのおもとえびして。此後やうで。西
にまくらをつゝ。あり終アリ。と。体もくらふぐべく。もふも
まくらむやく。もふ一八月廿日か。うきあひゆとバ。定めう乃正
忌。うえあくりふくら。うくべき。若やきまくら。かく。うだよ
うたうのふも。をぐ。山船のち日かまく。一月前。

定家申内忌の詩

明月記。建仁元年十月。上皇熊野。御幸は供奉の和。う。
十五日午時。許。署。發心門。宿。南無房。宅。此道之間。常
不具。筆硯。文。有所思。未書。一章。此門柱。始。書。詩。一首。

異角柱。閑所。慧日光前懺罪根。大悲道上發心門。南山月下結縁力。西刹雲中吊旅魂。

性情の切うつと夫婦の間ふかくはうどつ。漢人の詞
かう人明の何仲默といづが言にいそく。夫詩本性情之發者
也。其切^{ハラ}而易^キ見者莫如夫婦之間是以三百篇首于
雎鳩六義首于風而漢魏作者義闡君臣朋友辭必
托諸夫婦以宣鬱而達情焉其旨遠矣由是觀之少
陵之詩博涉世故出於夫婦者常少而風人之義或
缺^{ハタ}といづ。至^{ハシナカニ}ふうあともゆどもその多の情を。君
臣朋友ねどめち乃作すれば風をふの託へひてよいかみづ
る

らやふちの詩乃たきハ心がやもと他事を聞きふじふと
き人を感じしむばかり情のぬくからむすびなしをかくみがり
うち。そのせひをのべる詩もがくじむじむくうべきをぞねうと
となくてハ。性情とのがくじむとハジグカドベシ。よしめおとへ
詩か。うづくめの詩乃たきハ。かのふ人のうせを。うどうとへをか
ぎり。もとくえせ。またくほんの多くしたをばじひとぞ。ちくに
かうするぬかうをききとせぬかうをかうのあうきを。はてふ性情を
のづき。うづきハ。者きか。

あまうり

六帖か山乃哉のうかもきりきてゆうまくゆとうじづふつよりは

どもとあせどもとつまむのとあるやうだ。ちどを
なすむ。あゆくらう。おぞめし。

車をひきゆけ

李危集かづく。後後院を拂ひ仕へり。立親五以前。名宣ねど
ちんぎふ侍り。おもひ乃和ふ。作者からうと仕うがりし。今
皮風雅集とくや。拂うてらし。すこしかど。今ハ又翁はとくふが
え仕へり。うるまみを拂者とて。為定ハ。か色侍などきく
え。此ともおもむりやうて。ちして。おまかく。あがく。うばうだ
う。仕へつがふ。いとば身ハ。おもむく。おもむく紫乃うづかよての
ミサがさうじ。うそとびとがきみがくと。おおおうく。おおうく

うみとせど

其女人更般對女ノ百事

十王經

よふ十五度といふ地あり。佛說地藏菩薩發心因縁十王經
と號す。あり。そのいふてあらもみあひまかほくねきいつくり
あとのまし。まはかほく。少しも。傷ほく。いふまく。うを。これハ
ちゆきうづ。ま。皇國人。乃作も。あし。其文の中少。一。切
衆生。臨命終時。簡魔法王遣。簡魔卒。一名。奪魂鬼。二
名。奪精鬼。三。名。縛魄鬼。即縛。三魂。至門。閑樹下。樹有
荆棘。宛如。峰刃。二鳥栖掌。一名。無常鳥。二。名。拔目鳥。
我汝。舊里化成鷗鷺。示怪語。鳴。別都頓宜壽。我汝。舊

里化成鳥鳥示怪語鳴阿和薩加尔時知否亡人答曰都不覺知云然通樹門閻魔王國塊死天山南門亡人重過兩莖相逼破膝割脣折骨漏髓死天重死故言死天從此向入死山險坂尋杖路石願鞋云云死天冥塗間五百吏繕那云葬頭河曲於初江邊官廳相連羨所渡前大河即是葬頭見渡亡人名奈河津所渡有三一山水瀨二江深淵三有橋渡官前有大樹名衣領樹影住二鬼一名奪衣婆二名懸衣翁婆鬼警盜業折兩手指翁鬼惡無義逼頭足一所尋初開男負其女人牛頭鍊棒挾二人肩追渡疾

瀨えどりア別都頬宜壽ハほそぎて死天山キモトヤマ葬頭河ハミヅグミシ所渡有三とハみ川を以テ尋初開男云くちどきゆきぬけ去らどねどふそくもすのから草車ホリヒキヘヨ況アドリテ作豆ものしもくびうりて安ホリヒキア此後ホリヒキもとひのくも人もしハシメキムジハシムリモアホリヒキも事のまともうくふじのくも下ルソイキモウリモレモよむよつねじふ柿のあら

かくとよき。今てかうひあどをといひ。ことハ苦無、孝標といひ
た人の女乃うきよゆうて。うつも口をききめすからもかくぬを。そ
のうみねや旅乃金どうハ。がくゆすも玉うけあかくぞ。つゆうお
かくじゆ。まけ御もほがねりーせふち。まくまくあるあとあざき
まきかー。

かのがゆるぬえ

帰居の歌にて。みのま。まくば鹿をみてやうすむと
さくふそいとうし。いまひく。うかとらむあーぢの梅鳥
や風のうぐふまくひそをき。とよなうりの後ううをよ
び。あけ二ちかるの旅きへいあそやひがく。うとば。又とかくらひ先

くじて。うめぐやまくひそをまく。うる居。うれも誠政の用
のよきりふ。とがんよきひかーりる。すくべーと。こうじら渕末乃向
くうーとゆく。うの旅もゆくとゆく。うごく。うごく。ハ。うくふ
うくふ。うがゆく。うがゆく。うくふ。うくふ。し人。よどをてよ。

かのまくち記意宇助のふのゆきとまくせる文

所以號意宇者國引坐八束水臣津野命詔八雲立
出雲國者狹布之堆國在哉初國小所作故將作縫
詔而榜食志羅紀乃三埼矣國之餘有耶見者國之
餘有詔而童女胸鉗所取而大魚之支太衝別而波
多須之支穗振別而三身之綱打挂而霜黑葛聞

耶ヘ 尔カ 河船之毛モソロ 曾モソロ 吕モソロ 國モソロ 来ヨセ 引來縫國者モソロ 自去豆乃打絕而八穗米支豆支乃御堦也此而堅立加志者石見國與出雲國之堦有名佐比賣山是也亦持引綱者菌之長濱是也亦北門佐伎之國矣國之餘有耶見者國之餘有詔而童女胸鉗所取与大魚之支太衝別而波多須、支穗振別而三身之綱打挂而霜黑葛聞モソロ 耶ヘ 尔カ 河船之毛モソロ 曾モソロ 吕モソロ 國モソロ 来ヨセ 引來縫國者モソロ 自多久乃打絕与
狹田之國是也亦北門良波乃國矣國之餘有耶見者國之餘有詔而童女胸鉗所取与大魚之支太衝

別而波多須、支穗振別而三身之綱打挂而霜黑葛聞モソロ 耶ヘ 尔カ 河船之毛モソロ 曾モソロ 吕モソロ 國モソロ 来ヨセ 引來縫國者モソロ 自手波打絕而闇見國是也亦高志之都モソロ 乃三堦矣國之餘有耶見者國之餘有詔而童女胸鉗所取与大魚之支太衝別而波多須、支穗振別而三身之綱打挂而霜黑葛聞モソロ 耶ヘ 尔カ 河船之毛モソロ 曾モソロ 吕モソロ 國モソロ 来ヨセ 是也今者國者引訖詔而意宇社爾御杖衝立而意惠登詔故云意宇モソロ 上件本文モソロ ゆきらう

主て。すくにかくまか御。今け事。かの復え。かくす。
以よ。いぢりがくにまく。くわく。あく。解る。國引坐。は。
坐。字座。と。お
る。か。とあり。さう。此文。いそ。まく。他。ゆめ。餘。あ。まく。
を。裂取。引。寄せ。以。李。出。を。あ。足。ふ。ま。所。足。し。て。送。を。へ
き。る。を。つ。此。功。を。か。て。此。神。を。か。く。祭。へ。ナ。せ。し。大。國。主。神。を。あ
下。遣。ち。神。く。ナ。シ。が。ア。ハ。八。東。水。臣。津。野。命。ハ。古。事。記。み。淤。美。豆。
奴。神。と。も。て。須。佐。ノ。男。太。神。乃。四。世。の。は。孫。か。深。淵。之。水。夜。礼。花。
神。乃。乃。子。安。ち。國。主。ち。神。乃。は。祖。父。神。し。此。風。去。記。の。中。あ。り。あ。
る。あ。り。狹。布。之。堆。國。堆。字。ハ。冥。保。う。べ。一。遠。江。出。人。圓。山。高。詩。
此。風。ち。記。の。注。を。作。る。て。稚。字。し。と。り。さ。り。ま。と。育。べ。一。狹。布。より。は

ほ。き。ハ。陳。多。と。も。べ。て。あ。う。年。稚。國。と。ハ。ひ。し。べき。と。古。事
記。か。も。書。紀。か。も。國。稚。と。り。よ。ハ。ト。一。育。て。あ。が。初。國。小。所。作。と。ハ。
伊。邪。那。岐。伊。邪。那。美。ニ。柱。大。神。の。初。先。て。生。成。一。終。了。め。ふ。小。く。一。
ア。終。ア。リ。と。こ。も。り。此。出。主。ハ。北。方。足。リ。ど。して。狹。布。め。び。く。狹。
く。細。き。出。わ。り。き。し。か。く。い。や。ぐ。成。可。う。の。も。ぶ。る。を。か。て。稚。主。と。い。う。
ま。す。が。ベ。レ。將。作。縫。と。ハ。足。う。づ。う。づ。を。足。し。て。縫。合。す。て。廣。く。
作。ア。形。主。と。し。志。羅。紀。乃。三。墳。ハ。荷。字。一。あ。ト。新。羅。國。の。地。の。東
南。方。め。海。へ。ほ。き。出。主。は。海。し。國。之。餘。有。耶。云。と。ハ。う。ち。昂。崎。を。國
の。餘。ア。ア。高。き。地。わ。り。や。い。ぐ。と。ひ。の。ア。バ。飯。も。う。所。足。と。ひ。と。ひ。
童。女。胸。鉢。と。ハ。鉢。の。形。の。美。女。の。胸。の。め。く。高。く。立。く。至。く。手。ら。う。お。を。云。ね。

三ペー。あらぬの生もみ。女のうらめたりをほそて。胸別之廣吾妹也。
アリも。胸の事。平らうね。ぱつりとす。バシ。大魚ハ鮪の類をい
ふ。支太ハ鰐うべー。阿を署き。登を廻リテ支太もひひも。モ。鰐
も。つのかハ支を廻。登を降て。いへども。かくハ支を傍。登を廻。うが
い。まじ。太ハ。古事記傳。も。假。も。用。も。字。も。衝別ハ。漁人小國。ふ。
太鳥を捕。り。あ。喉を鶴。ひ。衝。て。る。と。う。ち。う。か。鮪。つ。く。わ
あ。と。し。う。バ。衝。を。つ。し。序。か。太。魚。の。鰐。と。は。す。ね。べー。鰐。ハ。乃。こ
き。ね。き。バ。ソ。ト。う。遠。ア。ガ。ズ。シ。モ。喉。ち。口。の。奥。ね。と。バ。か。よ。リ。衝。と
ア。う。を。バ。ソ。ト。リ。ア。ベ。キ。シ。モ。テ。衝。別。ト。ハ。か。の。玉。の。餘。も。ミ。ク。ル。を。鉢。を。衝。
入。と。て。分。取。を。ア。波。多。須。い。支。ハ。穗。とい。も。し。序。から。す。シ。穗。振。別。も。

屠。分。し。獸。の。肉。を。や。滅。切。分。つ。を。屠。と。以。て。同。じ。か。也。古事記。累。
詠。云。定。洋。波。リ。斬。波。布。理。其。軍。士。と。う。も。同。ド。か。の。餘。わ。地
を。鉢。も。切。分。る。ば。い。ふ。三。身。之。綱。ハ。身。字。ハ。写。保。う。べー。れ。玉
高。於。ハ。舟。家。の。保。ト。て。み。か。能。改。モ。ト。ど。う。ふ。と。か。が。也。万。紫。回。毛
ム。三。相。二。捲。流。綵。く。う。ハ。二。ま。だ。を。より。合。と。く。く。ホ。今。一。ま。だ。ア
ト。ク。合。せ。よ。そ。ト。は。よ。て。あ。し。又。書。紀。孝。德。は。先。小。三。絞。之。綱。中
あ。る。も。か。う。と。モ。リ。バ。捲。の。と。小。傳。て。自。と。ち。と。傳。も。う。又。會。乃。保
モ。ト。三。合。か。も。ま。べー。打。挂。と。屠。分。と。地。へ。うち。か。ま。て。海上。を
川。よ。き。る。シ。霜。黒。葛。ハ。忌。葛。ハ。一。種。の。ふ。と。く。嘉。の。お。き。と。う。は。く
う。ば。い。つ。う。う。ご。う。歌。く。聞。く。耶。く。尔。も。信。字。歌。べー。聞。も。耶。も

此書は中か假字小用ひる例か。こゝつてひらがひをひく
ううみから。向^ナけ那^{ナカ}尔とほりう。そ、今ちめかへうく
そしゆくくうとくまくう。向^ナと布^ハとまくうか。向^ナと
うハ海上を。浪^{ナガ}にう體て。ひまゆといつし。大和のゆく
うとくまくやくかくす。向^ナと船^ボとまく
もゆくくくゆくかくやりくひ。そ、まよ着ハ、序^{フサ}かく
ほきまとまくあかう。まよ着は、ふぞれて。まよくくとまよよ
はく又^{アシ}馬^マの一種のぬくべ。もう蔓^{カク}乃^ノをまくくとまよねを
かく。往^ム考^ムべ。毛^モい曾^{モソロニ}呂^ルかふく。信^ミふくくとま
ふくべ。まくくは^ハかくく。毛^モを省^ク言^ハひで。とて。

河船之ち序^{フサ}かて。海をゆく船^ボと川の船^ボとづくり
まくかく。ほきまとまく。向^ナけ。うて上の向^ナけ。あと^トハジ^{ハジ}ある海
ぬの宮^{ミツキ}ぬの。國^ク來^ムハ。一不^ハ。うみの。此上^ハ國^ク尔の三字^ヲハ衍
ゆく。又^{アシ}一不^ハ由^ハ良^クくとも。も。信^ミう。信^ミうべ。^トうとく又^{アシ}いはねが^ハと。例のとひて。まく。來^スまく。寄^ハ。寄^ハの
誤^ハ。國^ク寄^ハ。まく。上^ハ文^ヲ。うとく。國^ク寄^ハ。信^ミう
まく。まくかや。まく又^{アシ}文^ヲうまぐ^ハて。寄^ハ來^スか信^ミうる。し^テ
國^ク寄^ハ。新^ハ屋^のは^ハ洋^の餘^ハ了^ハ地^ヲ。寄^ハ事^ヲ。いづく。縫^{スル}國^ク
ち。引^ハせまく。出^ハまく。へ^ハ進^ムを。う^ハ地^を。ソ^ハ。自^リ去^ハ豆^ノ乃^ハ去^ハ豆^ノハ^ハ地^名
ヤ^ク。循^{スル}郡^ハ。許^ジ豆^社。許^ジ豆^嶋。許^ジ豆^濱。あ^ハる^ハて。出^ハ雲^ト與^ス循^{スル}
二^ノ郡^ハ。之^ヲ堺^トうり。乃^ハ信^ミうべ。まく。まく。考^ハ得^ハ。打^ハ絶^ハ。

寺宇一本小折と堺を以て限りとす。八穂米ハ米字ハ余を得也。か
うハ假名べし。八百土カニ。杵築也。桝洞也。支豆支乃御崎ハ。今世ノ
日之佐喜也。處也。ども。さくハ。循縫。郡の堺まで。地を。高イリ。し。
さくバ。杵築は東方半で。山をも。ア。峰ふと。加志ハ。和名
抄舟具小唐韻云。狀珂。所以繫舟也。漢語抄云。加之也。
有物。前漢書地理志。アハ。狀珂と。註。係船杙也。
くう。万葉抄。小也。ア。かく。かく。かく。ハ。縫合せ。ふと。又
離。シ。ウ。シ。セ。シ。ム。ボ。繫。ギ。堅。老。船。ア。状珂也。佐比賣山。飯
石郡。か。又。持引綱。も。う。ナ。國。を。挽。車。ナ。其。綱。シ。菌。之。長。濱。も。神
門。郡。ア。即。水。海。興。大。海。之。間。有。山。長。ナ。二。里。云。く。此。

者意美豆努命之國引坐時之綱矣。今俗人号云。菌
松山。云。く。ミ。テ。モ。又出雲郡小菌長三里云。く。此則出
雲與神門二郡。堺也。く。ハ。菌。長濱。長。ナ。キ。ヒ。グ。長。字
よりま。シ。て。長濱。二字の脱。ナ。小。て。ア。菌。松山。と。同。不。う。る。山
ト。北門。取。リ。属。き。濱。ト。山。小。属。系。少。ア。ム。北。門。ト。ハ。山。山
山。北面。ノ。海。を。ソ。ラ。ベ。佐伎之國。ヒ。佐。字。ハ。於。の。保。少。ア。隱
岐。國。小。や。ア。シ。ヒ。山。北。方。に。ア。所。有。也。シ。モ。と。ど。こ。ロ。假。名。也
ア。知。ベ。自。多。久。乃。ハ。嶋根。郡。小。多。久。社。ア。多。久。川。あり。秋
鹿。郡。と。の。堺。シ。乃。字。ハ。川。の。假。名。ア。ト。上。の。自。去。豆。ト。ア。ト。ア。ス。

此字有て去豆アハ川もアテムシバ・ルモイドウシム打絶与モ
ホ・ミ一トホ折ト与・ミハ・モモ而の信シ狭田之國ハ・秋麻郡アリ
佐太川又佐太水海あ・ジ・ア・シ・モ・シ・但・シ・コ・ハ・秋麻循縫二郡ル
地を以・テ・ア・セ・リ・北門良波之國ハ・ジ・ア・考・ヘ・ミ・ト・ク・良理流礼
呂を・言・ヘ・頭・小・ア・リ・仰・モ・シ・カ・キ・ト・シ・バ・良・字・ハ・信・キ・シ・但・シ・云・
シ・メ・大・島・の・北・方・に・モ・隱・岐・モ・ア・カ・カ・リ・國・モ・鴻・毛・ア・ク・ナ・リ・シ・バ・
上・キ・志・羅・紀・乃・古・崎・小・准・ア・フ・モ・ア・リ・ハ・上・の・佐・伎・之・國・ヒ・良・波・
之・國・モ・北・方・モ・異・國・の・名・小・モ・ヤ・ア・リ・シ・ヒ・ア・リ・ト・考・ア・ベ・シ・
自・宇・波・一・本・か・此・下・に・縫・字・行・シ・又・上・の・自・去・豆・と・自・多・久・
ニ・一・と・の・下・や・モ・ア・字・ア・リ・モ・シ・カ・の・ミ・ト・シ・マ・シ・ナ・リ・此・地・名・ハ・ア・
モ・一・本・か・宇・家・レ・手・ト・作・リ・小・ツ・キ・テ・考・ア・リ・モ・手・添・シ・モ・キ・シ・

嶋根郡小手染タシミより多々てめをみはもと考へふ。今ハ必ス上文乃
多々より東下文の三穗之堺より西からべきよりはきれを。手染か
て地理もよきがあつて。打絶而し打字法をみか折と作也。例か
りて改めつ。閻見國イニミツクニも嶋根郡タシミ久良弥社又捺見社なる。今
きくと多々川より手染ちの地を多くつてし。高志コシハ越國
都ツ、乃三堺トモハシ也。一やみハ都ツ乃
羽咋郡タケハタツクニ都知ツチ越後國エチゴクニ頸城郡カネグニか都宇ツノ神名帳ミナヒガタ小越前國敦
賀郡タケハタツクニ又坂井町サカイマチ御前神社サキミツカミあり。あらわはうちかもやあ
居キ。猶シテるべし。三穗之堺ササギノイハシハ嶋根郡タシミふれてて。東北もてし
まく上の傍シテもふう。此上かも。自某處打絶而とよそのあ

えべきか。うかのくも何うきハ。山三穂の嶋も東の限ハ海きよがむし。
此下小是也。とふ二字も多べきか。承きハ。ごくやも累きて。合きて下み
以てし。持引持字一を小持夜見嶋ヨミハ。嶋根郡のとう小達伯耆
國郡内夜見嶋ヨミ。どうをじ。固堅固字一をす。火神岳ヒカミタケハ。此風
土記ノ抄。伯耆國會見郡ノ大山。大山ノとをりといつ。まとあ
五代ノ。多つまて男ノ大山ノ。神名社ノ大神山神社ノ。火
火家ノ大を語り。やうやう。抄ノ天和のころ。國人岸崎時照
とつら。作らぬ。西ノ。三をりも。是也。上の三穂ノ。嶋。夜見
嶋ノ。と合せ。一つかいつし。引説一を小説。字解説。御杖衝立而。
オエトキニキレ意惠登詔故云。意宇。意惠ノ。事。か。方。にて。昔。き。浴。休息。當時の声

セミ。さく。惠。宇。延。の。ほ。さ。り。と。音。ふ。て。上。小。宇。を。言。は。ふ。あ。の
づ。う。後。ア。意。ナ。と。ハ。め。る。や。び。べ。ー。と。て。此。臣。津。野。命。の。引。來
て。縦。化。を。生。底。ま。ぐ。の。地。も。嶋。根。秋。鹿。指。縫。出。雲。め。四。郡。う。て。東
ナ。リ。西。へ。け。れ。移。す。地。か。ー。と。西。く。と。づ。き。く。か。わ。ー。移。す。が。り。
此。四。郡。の。う。ら。歩。き。取。を。の。ぎ。き。て。三。郡。ハ。南。方。意。宇。郡。と。の。中。間。ア。
細。く。長。き。入。海。う。て。歩。き。取。の。ミ。意。ナ。神。門。二。郡。小。行。き。と。く。
小。因。山。真。跡。が。考。へ。と。ハ。代。ア。ハ。此。入。海。西。の。大。海。へ。と。と。て。歩。き。取。
も。北。方。半。ハ。う。ち。三。郡。と。同。ど。く。入。海。を。へ。と。く。意。ナ。神。門。取。と。は。
離。と。そ。ぞ。り。ま。じ。と。い。ア。今。い。山。引。の。文。を。と。と。と。ま。と。ふ。と。
ま。き。し。と。と。と。と。と。此。文。ア。そ。と。と。と。事。と。と。と。を。し。ゆ。寓。言。ち

あくまでもひきのなかであります。神代すハ、かひのほうう。
奇き異き事ごとみ者て、此國土を成竟ナリテ。物とバ、古め傳説とづま
さむもえがふるまわうじ。ゆうしく實らひす。とく文のま
ふるゆうべし。

物語の草原の穴

小猿伊野。いや。寛政元年三月廿二日。出雲大社。すこで
まちへまく。鷗湖山。迫きまづりけ山。ま。泉の穴と。よがわあ
う。ちやく。吹氣も。いづれかうと。そじもうふ。此まづりかも。びえと
手人まちをさう。杵龜井人のひをせす。さくらふゆまくえまやく
く思ひぬど。年もくれば。是よまくてみぐくへえぬを。あふ

見ゆふ所よりはあまくせきして下れ。あはこくわにて五す。
三ふむうもまべ。ぬく井ぬまえと。底ふく。えくわは。にうち下る。
壁上まくわゆる者。その石みまかどき。まじてこれめかく。
色ハ白く。又青をもとももまじ。まじ。南のむ一處へ。高さニ
ぐぐうみて。ちまハ一丈みふく。ほど枝うどと立まくじやうやく。
一つのちるにて。びぶり下す。穴いきく北の方へ。まがつて。そくそく。
まぐて。口近き。あく。るす。苦ねがむ。もく。まく。下けまく。かく
まく。潤^{スル}きく。此穴。黒ノミ。冥途^{メイドウ}の穴といづ。そのまぐりけ者も。
あく。まく。この奥岡村のあと。導かゆてひづ。年七ナ。ばく
聖翁也。傳をよみ。穴をそむか。ごとまれし。年三十。聖翁の

の。おがくゞほど。どりてす。うば。室千草。ばううらき。かわる。かづ。
大きかる石一つを。かくやうてす。おおきく。そのうちハ。ふとお見せど
と。まえしく。おもねりやうむちある。おとをふくらむ。それ
に。せうとく。おもねり。おもねります。又。むく。鰐窟。ちく。を
経て。智證上人。こやひ。此穴。入定。おひゆう。かのあら
猿記。ある。うと。と。また。おも。居る。と。此ふ乃も。べ。おふ。奥
山の。山の。中。かけ穴。の。うとうて。わく。を。ば。く。う。各々
ソ。お。く。う。し。鰐窟。く。つ。き。も。お。か。く。ど。う。そ。
あり。お。ゆ。み。し。の。そ。め。お。ど。み。よ。う。と。お。い。お.
お。く。う。お。ゆ。み。し。の。そ。め。お。ど。み。よ。う。と。お。い。お.
お。く。う。お。ゆ。み。し。の。そ。め。お。ど。み。よ。う。と。お。い。お.

おやじに。おもひ。おもひ。と。お。く。お。か。お。じ。お。の。お。を。お
ア。お。く。お。つ。で。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。
お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。
お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。
お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。
お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。
お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。

師を。よ。と。そ。く。

源氏。お。ぐ。り。の。お。お。ま。ま。お。く。一。年。の。仰。ご。と。お。く。一。年。
ら。お。と。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。
お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。お。く。

久松を湯る羽

おもぞりて。圓るも。やれく。おわよへ。蒲石榴。楚斑。紅粉。さざの
ま。やうゆきぬかも。そぞろ見し。ほそふを。うりて。なみを
ほり。うすし。此か。かも。行。い。等。同。と。し。蒲。ハ。蘭。生。根。ど。よ。ぬ。ハ。
今。も。騒。と。ざくろ。ハ。石榴。の。ま。は。ま。ゆ。べ。と。されど。云。ぬ。の。根。よ。と。う。り。芭
蕉。あ。ざ。と。お。ま。み。物。あ。か。も。せ。を。だ。と。う。り。上。乃。も。わ。だ。ハ。便。て。と
ひ。き。楚。と。末。枝。じ。末。を。も。と。と。や。き。声。を。こ。き。づ。く。や。ど。い。そ。の。じ。
班。古。秋。代。紀。ゆ。も。班。駒。と。そ。と。う。き。先。を。し。ち。ご。毎。も。判。る。は。古。も。あ。を。鑑
ふ。と。も。あ。び。と。て。鞭。ま。と。信。と。お。ち。と。よ。か。せ。と。い。と。れ。と。も。む
ち。や。べ。と。ん。ね。と。う。が。一。行。と。し。お。料。ハ。も。多。か。經。粉。と。そ。と。も。上。の。伊

の外ふるもあは現のまちをみて後のもし場ハ多くも大を馬
場あとハアとされどもくじ場とつてとハアとどくもくじをも
あらかじる場ハアとくじに大へりハ野ともはよむとハつひきをし又可ベジ如キムカ
ムヒミ上から見てつぐもとばあく

もんぢ
三代家業大七は毫小短籍と云々又武家の事
うをぬ物ノハ行べ。

五
二

あはう。うつむきをじふねでしのぎ乃ちうそくもんや
そりあ此をさうハ追まふかあざれぬとふゆう。

中
文
書

船はさかわくもむか年のはせひかおをかねび
つぞとし。あまふらう。

皇祖母尊

か。ちふ己を生ふ父母ウヌアカギカギジビ。チトホツホヤミコトニテ。夜ヤトシヒムラシムラル。ちふ古書アラシキ。毛トホツホヤ禪ミヤモミ。父母アマミモモリケリ。多タカシ。祖トトロトキ。リバニリバニ。こともそのトコモソノ。祖母トトロトキ。親母トトロトキ。毛トホツホヤ禪ミヤモミ。漢文カムニの祖母トトロトキハラトキハラジビ。大オニキ書紀シキ。何ナニモ。漢文カムニのトトロトキトトロトキ。も。毛トホツホヤ禪ミヤモミ。そのトコモソノ。祝シラフ小書シコシ。文カタカタ。ちふ紀シキ。とト。上ウ件スル乃オミ。毛トホツホヤ禪ミヤモミ。祖母トトロトキ。中ウヂ。

西宮記郡司讀奏條小東海道ウチヘツミナ・ウツアチ
又ヒウガレノミテ東山道ヒシガレノウミノミナ
又ヒウガレノアチ北陸道ヤーノミナ
クルカノアチ又キタノアチ山陰道止モノアチ
又ウメツアチ山陽道カゲト止モノアチ
又カゲ止モノアチモノアチ

又曾トモ南海道三十三ノ三チ。西海道ニレノミチ。

又ミチ。又ミナミノウミノミチ。大領

古保乃見ヤツ古。

少領瓜ケノ見ヤツ古。と云て北山抄ふち。畿内

宇治都久仁。東海道宇女都。

又宇倍。東山道山乃道。

又東乃道。北陸道久流加乃道。山陰道曾止毛乃道。

都道。又介止毛乃道。南海道南乃道。西海道西乃道。

大領古本乃ミヤツ古。或說大領於本イミヤツ古。領ミヤツ古。國擬久仁又大古本乃ミヤツ古。安天

陽道加介止毛乃道。南海道南乃道。西海道西乃道。

大領古本乃ミヤツ古。今說尺上是式部例欽

少領須介乃ミヤツ古。領古本乃ミヤツ古。或說大領於本イミヤツ古。領ミヤツ古。國擬久仁又大古本乃ミヤツ古。安天

申利。擬大少領加利乃一。白丁音讀。朝集使朝集乃使。と云てより。は二

書を合きて考へり。西宮記の方か東海道を。ウチベツミチと云る。上の
千ハ写。一誤。少して海皇ツ道ウチベツ道。ベー。ベク。島ベー。ウベツアチ。ト。み
べのみを省き。も。最も海皇つを誤。ベー。アキハ。即道也。さけ片假
名。あ。三。を。と。ア。と。出處。と。書紀の例を。ふも。多く。まき。

ち。き。し。う。と。お。差。わ。り。き。む。を。今。ハ。そ。く。く。ひ。り。ぬ。ヒ。ウ。か。シ。ハ。し。ん。り
い。こ。つ。と。ゆ。ド。こ。そ。か。む。む。う。か。て。じ。ち。と。う。ふ。も。い。し。か。も。ほ。
う。う。ち。わ。を。と。使。か。て。む。と。う。と。し。い。も。も。い。ひ。そ。と。引。き。か。そ。も。渴
ゑ。し。日。向。を。か。う。が。と。つ。あ。と。曰。じ。東。山。道。を。ウ。メ。ツ。ミ。チ。ハ。東。海。道。の。讀。や。一。
ミ。チ。ハ。東。山。道。の。讀。し。北。山。抄。正。一。ま。テ。ウ。メ。ツ。ハ。ウ。カ。ウ。ベ。と。曰。ド。く。て。ベ。を
通。り。て。メ。と。い。す。北。陸。道。を。ソ。ル。ガ。ノ。ミ。チ。と。う。ク。ル。ガ。ハ。く。ね。ぐ。を。唱。へ。保
持。る。が。で。し。く。ね。ぐ。ハ。今。其。ふ。も。陸。と。い。ふ。を。し。山。陰。道。を。止。モ。ノ。ミ。チ。と。う。六。
止。の。上。ふ。曾。字。ミ。レ。が。脱。ま。し。と。と。く。西。宮。記。か。の。ゲ。る。よ。か。と。こ。れ。の。本
が。と。ハ。と。の。上。の。件。の。お。も。く。わ。り。御。事。と。保。と。あ。が。き。と。ア。海。一。ハ。善。本。
ヨ。キ。一。

今とあべきし。北山抄乃うも、いそべく西へくる也。之ゆか、北陸道かキタノミチとす。後あきは、後ともかや。南海道、西海道の後、小トヨカ。こととも北の道も、いそべきし。又二書、うとふ。山陰道かカゲトモノミチ。山陽道かソトモノミチとす。説ち、むぎとし。うをうとハ影面也。かみ南をいひ。そともハ背面かて北うとす。さるをもとあら人の陰字にてりて。ゆくわゆくさかくらふ入きくへまねべ。さて又東海道かヒウガシノウニノミチ。東山道ハヒウガシヤマノミチ。假どころぞ。字かあくまで。正きまゆかす。それだけもぐじも。中々か後の訓かて。東海道ハウメツチカドリヒ。東山道ハ東の道又山の道もつひ。北陸道ハクルガ道又キタノ道とソヒ。南海道ハミナミノ道。西海道ハニシノ道とす。返アテテ正ト加るべき。こそ互にうだりとおきかぎ

アヒ。言を省にて。つまやふ短く定毛とあるとバ。書紀の巻くふ尼の門も。畿内ハウチツクニ。東海道ハウベツミチ。又ウミツミチとヒ。東山道カヤノミチ。又アヅノヤマノミチとも。北陸道ハクヌガノミチ。又クニガノミチ。又クムカノミチ。又クルガノミチとも。山陰道ハソトモノミチ。山陽道ハガゲトモノミチ。南海道ハニナミノミチ。西海道ハニシノミチとヒ。さて又郡司のよも。コホノミヤツコハ。郡造^{コボリミヤツコ}也。國造^{クニミヤツコ}也。助造^{スケニミヤツコ}也。郡司をいざもつべく。大領ハオホイコホノミヤツコをうぢ。あくまである。書紀の例。大領を。コボリノミヤツコとも。オホニヤツコとも。コホノミヤツコとも。アホモヤツコハ。いふやう也。少領ハスケノミヤツコ。

北山抄大嘗會午日，廵_ノ云。次安倍氏奏吉志舞。五位以上引之設床子等。如前作高麗亂聲而進舞者，廿人。樂人廿人。安倍吉志大國三宅日下部難波等氏供奉。寃平記云。於舞臺西奏之。引頭二人立臺下舞人在前後端者。服甲胄在中間者。幞頭冠末額褐衣兩襷皆執楯戟舞酌刀云々。

鈴奏

行幸時小鈴奏とひふとけり。同書行幸條裏書云。若少納言遲參者少將相代奉仕鈴奏其儀圍司奏了退。

歸之後入自光腋門經長樂門前橋進就版位揖而奏云御共尔持仕倍奉良鈴賜良牛申云。還御時撤御輿後不待圍司奏進自長樂門前橋頭奏云。御共持奉礼鈴進止申云。

荷前

荷前荷と能くつとハ本源本末本末は蒙附と許とひし火と火新炎ふと保とひかしあげひて。火のち火走五のをふるくく保きり。虫紀祚功走小荷持をと能登利と訓注あり。又和名所後中かづ透乃鄉名小近似と考テ知加乃里と考テくる事。書字も似ものとひくよけり。こやもし同一例也。

改年號

西宮記云改年號大臣奉勅仰文草博士令勘申年號奏聞勘定之後仰內記令作詔書奏草及清書賜御畫日下中務中務度案於太政官大政官庫署大納言覆奏畢下施行官符云々

改錢

同書云改錢大臣奉勅仰博士令勘錢文奏定畢擇
吉日召能書者於陣頭令書字樣奏聞賜作物所用定
副官符下鑄錢司鑄錢司進新錢奏解文之後先奉
神社佛寺云々

後成つて定めつゝも終つて万葉集といつた
甲斐、まゝ身延山とよどみのすゞとをちりと身延後と
名づまゝよしとねをちりとく。かうは寺の寧老寺とよまれる物が
そぞちりする中、か後朱室家つ親子五子けま紫苑一翁、為家
のちと家、為相の源氏か後一翁、阿佛尼えれたち長道家との朗
詠集、うしとよしとよしとよしとよしとよしとよしとよしと
あつめ萬葉集也と、あくふんねむことぢりか

定家伊納吉也矣。見えくもみやこもむらかみ
山房もさき夕景めめとひ。本ハ吾とひも無し。あも。あも。あも。

ひて言ひかひよとがくめあひ行り。鶴林王露といふ書也。
杜步陵詩云。風含翠篠娟娟淨雨裏紅葉冉冉香上。
句風中有雨。下句雨中有風。謂之互體。

高野山

性靈集補闕云。於紀伊國伊都郡高野峯被請乞入定所表曰。空海少年人好涉覽山水從吉野南行一日更向西去兩日程有平原幽地名曰高野計當紀伊國伊都郡南四面高嶺人蹤絕蹊云々

佛法僧とつゝ鳥

同書小後夜聞佛法僧鳥詩。園林獨坐草堂曉三寶

之聲聞一鳥一鳥有聲人有心聲心雲水俱了了
野府記云。萬壽二年八月七日丙辰云々。昨夜風雨間。陰陽師恒盛右衛門尉雅孝昇東對上尚侍魂呼近代不聞事也。云々五口小尚侍嬉子けうけうけしゆうけし。對上の弓小屋宇おちる。善本以考也。一
件事は簡

吉部秘訓抄。立神事筒。僧尼重輕服不淨之輩不可參入之由書之。

親王涼元服袍の文又色ヨリ淺色と云ふ色也

内様ノ。親王御元服。御袍色並祿法事云々。予申云
於御袍文者。雲鶴之由。見保延記云々。又右府云。御
袍色如何。予申云。如西宮文者。黃色欵而保延被用。
淺黃云々。左大辨定云。縫殿寮式。雖載淺黃之由。用
途載莉安以之思之。黃色欵云々。長和二年。敦儀敦
平御元服。兩親王著黃衣。共淺黃也。世稱之黃衣。寬
治元年。親王元服。著綠袍。云々。同大六。今日。今官有
御元服事。無品守。親王御袍淺黃綾袍。雲鶴文。無裏件。御
袍色。兼有沙汰所。被逐保延之例也。とづり上件親王
元服の古袍色。黃と綠とし。うるそも。ハ。色の名のまゝ。あ

ゆり。そのよか。うち。ちとき物。ト。淺黄。くろ。ハ。黃色の淺き。ゆ
つ。し。ゆ。を。後。アサキロ。淺葱色。と。ゆ。し。く。淺葱色。ひ。く。ゆ。し。く。淺
と書か。古き物。ふ。浅黄。と。ゆ。そ。と。ゆ。そ。て。淺葱色。と。ん。た。と
く。長和二年。共。淺黄也。と。ゆ。ハ。黃衣。は。黃色の淺き。よ
を。あ。と。こ。や。し。此。や。ど。ま。ハ。ま。ら。い。び。り。し。ゆ。く。ふ。寛治元年。の。く。
緑袍。用ひ。ト。シ。ハ。古記。ふ。浅黄。と。ゆ。く。浅葱色。は。よ。く。ん。に
て。ゆ。保。延。被。用。浅黄。と。ゆ。る。方。浅葱色。か。ぞ。び。り。き。む。
と。同。廿。六。と。う。ハ。建。之。二。年。十二。月。の。廿。六。日。と。

ふ。多。ふ。そ。う。か。へ。と。よ。そ。う。

そ。う。か。う。と。す。と。ハ。た。う。と。部。云。形。で。ハ。よ。ま。ゆ。や。う。が。う。と。

括き集雜上か能定。寧乃絶えめけ。かもようしもさう佑保乃
川系かをうちうすりとく。後後括き集をかむ。云條。内有。時
ふぐくとくもあをうちうへといく庸俗をうきを叫ぶん。これ
括き集をかふたりて。とくはすふや。おれうどろくやもよ。き
く。ハスラム。出でるのとし。室五月部とくつかひ。後
れねだ。やや又きぬまみまの時も五月。あすををうちかを
とつと。新軸。括き集に入り。ことハ部るふじり。れど。五月モ
ちかづくともぞり。

おはがの望つまはよ
おの頃アタタキ。おまへのまことよ。べき。や。續

子撫ト。あく。あく。あく。あく。あく。難波のあく。で
そく。じぐ。あく。まく。あく。じぐ。じぐ。

片鳥法鳥

うか鳥ア。片鳥法鳥とよす。お屋。めう。うるぬ。お。う。う。
連う。う。花。下。く。う。
菟。秋。波。集。序。ふ。う。め。か。ド。と。み。う。と。撰。集。に。う。く。あ。が。う
と。ほ。え。う。人。も。式。目。を。つ。う。て。え。ー。く。ま。の。う。へ。乃。か。う。う。び
花。の。う。で。め。う。ふ。う。と。お。う。り。と。き。連。う。け。お。う。と。花。下。と
お。称。う。ハ。此。内。を。う。る。な。べ。

辛崎の松

滋贺の辛峰のねも。さういふと申すやうにて。かくものそ
らをひりかへば。お津の山岸の新店。新店破れち直村の弟也。
松菴東玉。難舟直壽也。二人きりがね乃ひよびづくく
ちもくへり。弟は難舟。つらふ風情あるねをもづくえ
て極也。天正十九年秋のじゆりき。此事。尊朝は親王めうせぬ
へうかのねの紀ノイニテ。技業技業集にのせんきく。今乃ね
きふとねむる。

むかみ

人の形をちひく。像也。ヨリハ乃もてうよお地を。物候がくま
う。むかみとつう。こそハらひく。たとえ。ちのむかみとく

へういふ名也。家も離とかきぐはせ乃人も。むかみとくをゆく
むかみとくもひすハ。侍もをあい。室町をあい。やまばげふすくハ
うとよとびとて。むかみとくを行て。よきとバ。假名ハむかみとく
べき。おとよハしゅがたり。物の離形しよも。うひく。ゆく
よみ名也。

てづ

おとよは離形。もとゆくとふて。づねりとづくとく。おとよ
業。おとよ月記。うも。いぢくいふか。おとよふくとく。いぢくと
づくとくとく。おとよとく。

合 菊成社の神主祢宜權祢宜

台記云久壽元年六月十五日頭光頬朝臣來曰賀茂祿宜重忠轉神主權祿宜家平轉祿宜貴布祿祿宜助平轉權祿宜氏人久教補貴布祿祿宜者より神主と祿宜と云く貴布祿祿宜の權祿宜小薄もハ咎義の禮祿宜ノ如モリシ。

春日社の預

同記曰同年九月七日今日招在大辨仰下春日社預二人本六人也而閑白殿長者間加一人為七人余長者後仰曰宜任舊為六人但非可解却本預一人入闕時不可補替者其後預信春有罪解却祐房右

兼死去三人替補二人也祐政

人のぬき跡を掃ふをつむき葬めぬる跡をつくよ

人のぬき跡を掃ふをつむき葬めぬる跡をつくよ
ゑゑ同記云久壽二年十二月十七日傳聞今夜亥刻高陽院入棺云即奉遷福勝院云出御之後民部大夫重成以竹幕拂御所

日前國懸社遷宮日時

中右記云寛治五年十二月七日今日上卿參陣擇申日前國懸社遷宮日時とてよりそのうちハ此渉社あるど遷宮朝廷よりおまさせ給ひてかく嚴をひき

聖行幸社司勸賞

同記云嘉保二年四月十五日今日賀茂行幸也。裏書云賀茂行幸上下社司勸賞上社司九人神主從五位下賀茂縣主成繼讓外甥藤原政季祿宜從五位下同安成源保祝從五位下同成季讓舅父藤原行季。祿宜從五位下同重助國守權祝從五位下同成長讓父惟宗片岡祿宜從五位下同成定讓外舅紀資宗同祝從五位下同成賴讓藤原貴布祿祿宜從五位下同成忠讓平同祝從五位下同成氏讓藤原下社司五人祿宜正五位下鴨縣主惟季宗政自叙祝從五位下同伊

房讓息男權祿宜從五位下同職通讓藤川合祿宜伊俊讓伊俊川合祿宜從五位下同經貞同祝從五位下同惟輔讓伴李兼已上十四人倍加一階下社權祿宜從五位下季長依重服漏勸賞追讓代官伊長藏人少納言後日云代官惟長叙爵又季長可有勸賞由追有宣旨者。

節刀比事

同記云寛治八年十一月二日云依仰與彼中將向內侍所官行事所新作辛檜一合長四尺黑漆中朱結之件辛檜樣不慥尋得相具與彼中將共取出節刀十柄此中有靈劔樣切鋒八柄一柄長五

寸五分。左方府形繞見打界也。左鋒靈形繞。一
殘。鋒二寸許。師双柄。本五寸四分。自貫之穴二。
柄長二尺二寸。峯有銘文云。北斗左青龍右白虎。此
下燒損不見也。中央間有此字許也。後玄此字以
其上鳥尾形。總在柄本六寸穴一在。以上二柄者。
是靈斂欵。殘六柄。長二尺四寸。但柄本或六寸或
八寸。柄本四五寸等相加也。斂并曾不見。
鯰尾二柄。一柄。柄本三寸。一柄長二尺四寸。柄
以上二柄。以上十柄皆以燒損。一監臨納辛櫃。
無銘文。後以朱綱結固之。云。裏書云。長德三年五月
廿四日。藏人信經私記云。遣召主計助安倍晴明。呂
納了。後以朱綱結固之。云。件御斂。四柄也。去天德
問。宜陽殿御斂等事。申云。件御斂。四柄也。去天德
內裏燒亡之日。皆悉燒損。晴明為天文得業生之時。

奉宣旨進勘文所令作也。十四柄之中。二腰名靈八。
一腰破敵。一腰守護。但件斂有鏤。鏤歲次并名。又同
鏤十二神。日月五星等之祿也。而燒損之後。不見其
文。仍所献勘文也。御斂樣乃木形也。件破敵是遣大
將軍之時。所賜節刀也。一腰是名守護。候御所是也。
者。天德以後度之燒之後。未被作件。二腰本是百濟
國所獻云。今日所遣斂身六柄之中。靈八。二腰之
寶有之寶件。靈刀。國家大寶也。必可被作儲者。天
德奉勅以備前國撰。獻鍛冶。白根。安生。令燒其實其
高雄山也者。七八月庚申日。必可作此斂者。其故仰

造酒令史安倍宗生等也。今幸八月廿六日是庚申
日也。然而已為九月節。又日次不宜。明幸七八月庚
申日可被始作。欵件記。後日從治部卿通俊許借
得而所記置也。至寛治八年十月乃日行。皇居深川院
燒火^{アラシ}をりめふし。裏書信紙私記といふ。記事と車書亦忘
れど。第刀黒^{コトハ}はくも多し。文外^{ムツイ}百座被

白川顯廣王記云。長寛三年六月六日。今日百座被。

奉宣長寛三年齋王帰京

同記云。長寛三年十二月十九日酉時前齋宮立本
寮^ヲ迎。尤少辨行隆王兼隆也。支^ヲ尅^ヲ著逸志宿。廿日午
尅立逸志驛家。廿一日既伊世河口午時出御。萬事
不^{ルカ}具之故也。廿一日戌時著伊賀山中一宿了無先
例。迎御輿散^ヲ引破^ヲ如薪結合持參也。凡無先例事
也。廿二日戌時著伊賀河口^{天仁}廿三日著黑太^{丈六}即
一宿^ヲ伊賀河口^仁寮侍武者所為殺平大納言河
婦^ヲ衆住人致時了已其身負手御迎撫非違使廣
綱^ヲ子二人鬪乱已突殺了凡路次一切不措濫行端
多廿五日僅著和泉木津不作御所仍奉令宿^ヲ舟船

云々。凡今度帰京散々欵後代如何。云々。逸志
驛家十九日未時令立給官司依辨憂助不勤事驛
供御膳一萬事河口驛家如形御所假屋許也。米四石
至出云々。輿折夜半不作山路嶮岨之間不堪行步
仍艱難云々。今夜不供御膳伊賀驛家一切不措同
在廳不相迎經町宿二日伊賀神部無先例駕
之後齊王御泣涕云々。大二鳥居江御被二瀬梨
木津召御船。かうへり。さけまう。うさおねどもむ。
よのゆめり上件の文す。誤てと。又膳も。と。わくと。す。
いふと。うみぐれんと。あく。西和南齋言上本

勞をうり爲きの作法
中原康富記云。予持菖參進之時落笏之間菖下置
テ取笏テ揖レテ取菖一揖レテ立更參進是落笏
之時作法也。

哥會。大勢太鼓樂歌舞
同記云嘉吉二年九月十八日今日參冷泉中將持
和朝臣宿所近衛室去月移住此宿所云々。一盞分
鶴之及雜談和歌懷紙書様又會座置懷紙之様講
師已下條作法具被口傳之不遑記錄者也。云々。
同日今夜飯尾新左衛門尉為數亭和歌會也。云々。

常光院大僧都堯孝出題也。今夜爲讀師。巖川新右衛門へ道智蘊爲講師。云々。今夜新右衛門講師之時。堯孝が短冊ニハ。大僧都とよめつて。懷紙又同之。其外ハ皆實名。官途實名也。聊可有思惟歟。如何實名之中。ちと可然之輩。微音也。有一其驗。愚存又如レ此也。先講懷紙ヲ之後。次短冊ヲ披講ス。

